

教育センターだより

令和4年度 第2号

黒部市教育センター

生き抜く力を育む

黒部市教育委員会

教育長職務代理者 紙谷 真紀

ある国際交流において日本とドイツの学生がディスカッションした時の話です。

話し合いが始まると、積極的に意見を言うのはドイツ人の学生ばかりで日本の学生は意見を言えないでいました。「なぜ日本の学生が意見を言わないのか」とドイツの学生が尋ねたとき、ある日本の学生がこのように答えました。「私を含めた日本人は、自分の考えや言葉が正しいかどうか、とても慎重に発言します。発言には責任が伴い、周りに受け入れられないのではないかと不安に思うからです。」それを聞いたドイツの学生は、「私たちは小さなときから自分の意見を言わないことはいけないことだと教えられてきました。みんなが異なる考えをもつことは当たり前だと思います。」と答えました。

確かに日本では他者への忖度から意見を言うことを躊躇い、発せられた言葉には責任を伴い、容易に取り消すことができない気もします。一方ドイツでは、個々が自身の考えをもつことが当たり前で、異なる意見が出てきたときには、その意見に対して建設的に会話を続けようとしています。彼らは多様な考え方のもとで、物事を多面的にとらえることの大切さをよく知っているのも、誰もが相手の考えを尊重できる聞き上手でもあります。

おそらく、欧州では個人が社会をつくるという意識が高く、日本では個人は社会に帰属しているという意識が高いという違いがあることが、この場面での考え方の違いにつながっているように感じました。どちらが良い、悪いということではありませんが、「文化の違い」が「育ち方の違い」を生み出しているのだと、はっきりわかるような出来事でした。

昨今、グローバル化、ICTの標準化などによって社会は大きく変化しています。そういった環境変化に伴い、子ども達の「育ち方」もまた変化してきているように感じています。かつては生きていくために他者と力を合わせてなければならぬことが多く、そのために他者との触れ合いは生活の中で不可避なものでした。しかしながら家族構成が小さくなり、地域社会との付き合いも疎遠になりがちな環境下で、「他者の意見を聞けない子ども」や「他と交われない子ども」が増えているように思えるのです。情報も手近なものになりインターネット、SNSで様々な情報や考え方を知ることができる便利さの一方で、子ども達が自分に都合の良いものばかりを集め、偏った思考の持ち主に育つリスクもまた高くなっています。

さらに高度に国際化、情報化するこれからの社会を生き抜くためには、ものごとを柔軟かつ多面的に読み解く力が不可欠になります。以前にも増して、学校をはじめとする教育の場には「学び合い、気づき合う場」への変化が強く求められるようになるでしょう。

ひとりひとりの考えを引き出し、話し合い、学び合うことの楽しさを感じとれるような環境で育った子どもには、多様な価値観を柔軟に受け入れ、建設的な思考や行動ができる力が自ずと備わっていくはずで、自分の考えを言えず、単に周りに同調する子どもから、様々な人の価値観をつなぎ合わせ、協調するなかで考えを紡いでいける子どもへと変えていくことも可能になるでしょう。

もしそのような学びの場にすることができれば、子ども達にとっての学校はきっと楽しみにあふれ、たくさんの仲間のいる、より「かけがえのないもの」になると思います。



全国学力・学習状況調査の結果（黒部市）



4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果の概要をお知らせします。

1 調査結果（教科）に見られる傾向

(1) 全体的な傾向

- 小学校国語及び算数で全国平均正答率を下回ったが、小学校理科及び中学校国語・数学・理科で全国平均正答率を上回っている。
- 小学校の国語では、全国と比べて、標準偏差（中央値からのばらつき具合）の値が0.1ポイント小さく、算数、理科は、全国と比べて、標準偏差の値が0.2、0.1ポイント大きい。
- 中学校の国語、数学では、全国と比べて、標準偏差の値が0.1、0.2ポイント小さく、理科は、全国と比べて、標準偏差の値が0.1ポイント大きい。

(2) 各教科の結果

<小学校 国語>

- 話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかを問う問題では、全国の平均正答率よりも2.6ポイントやや高い。
- △ほとんどの領域において、全国の平均正答率よりも低くなっている。

<小学校 算数>

- 「A 数と計算」「D データの活用」の領域において、全国の平均正答率より1ポイントやや高くなっている。
- △数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかを問う問題では、全国平均よりも7.4ポイント大変低い。

<小学校 理科>

- 概ねどの領域においても全国の平均正答率よりも高くなっている。
- △「記述式」問題の中で、問題に対するまとめから、その根拠を実験結果を基にして書く問題では、全国の平均正答率よりも3.1ポイント低い。

<中学校 国語>

- どの領域においても全国の平均正答率より高くなっている。
- △文の中で使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選ぶ問題では、全国の平均正答率よりも3.2ポイント低い。

<中学校 数学>

- ほとんどの領域においても全国の平均正答率より高くなっている。
- △「B 図形」「D データの活用」における記述式の問題では、全国の平均正答率よりも2ポイントやや低い。無答率も31.8ポイントと大変高い。

<中学校 理科>

- どの領域においても全国の平均正答率よりも2～5ポイント高くなっている。
- △力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明する問題では、全国の平均正答率よりも5.2ポイントと大変低い。

2 調査結果（質問紙）に見られる傾向

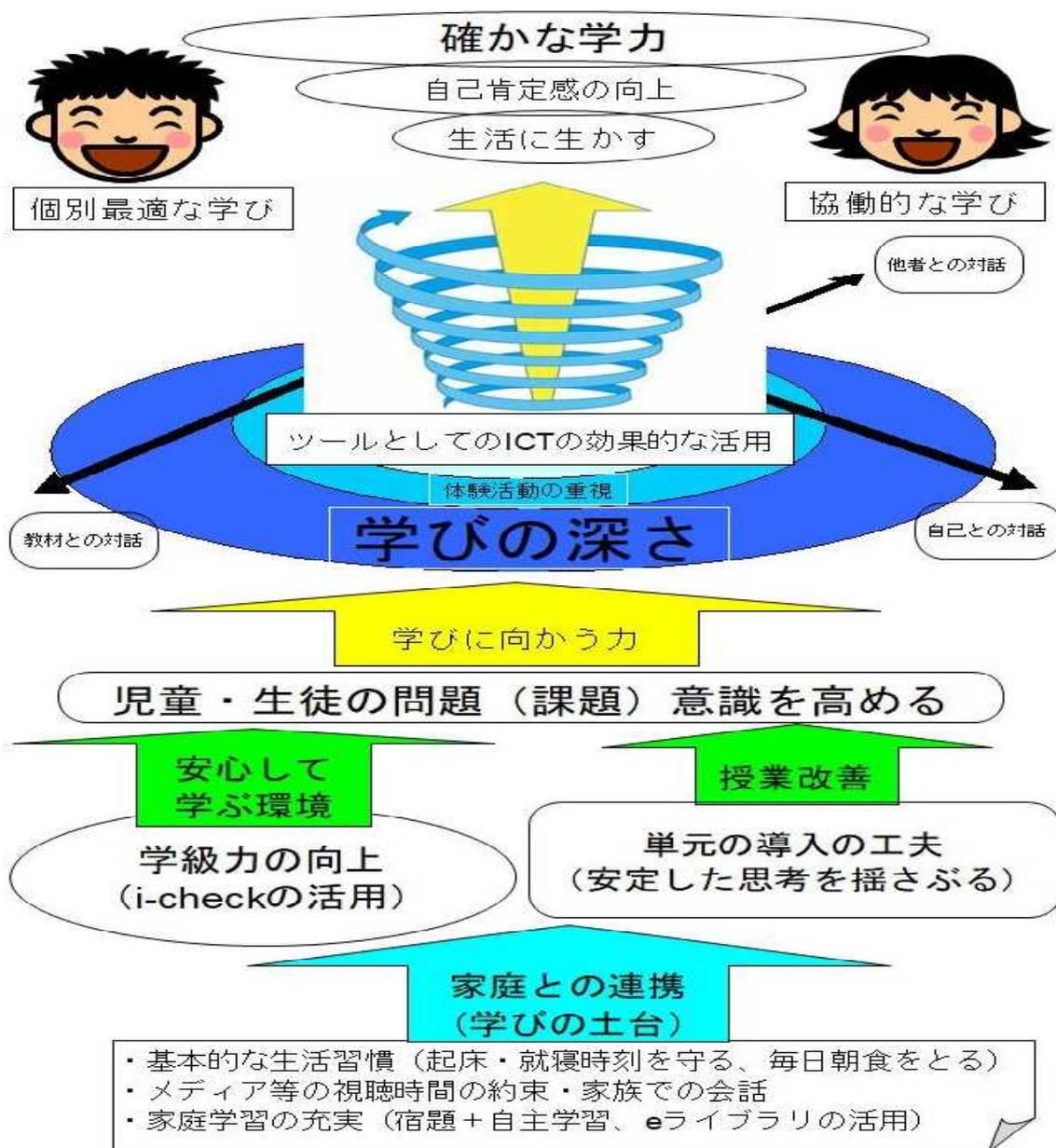
- (1) 全国と比較して、上位2回答の割合が3ポイント以上高く、前回調査と比較してポイントが上がっている項目

- | | |
|-------|--|
| NO.1 | 朝食を毎日食べていますか。(中) |
| NO.10 | 自分でやると決めたことはやり遂げるようにしていますか。(小) |
| NO.20 | 家で自分で計画を立てて勉強していますか。(学校の授業の予習や復習を含む)(中) |
| NO.22 | 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どれくらいの時間、勉強しますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(中) |
| NO.26 | 読書は好きですか。(小) |
| NO.66 | 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。(小・中) |

(2) 全国と比較して、上位2回答の割合が3ポイント以上低く、前回調査と比較してポイントが下がっている項目

- NO.4 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束を守っていますか。(小)
 NO.16 学校へ行くのは楽しいと思いますか。(小)
 NO.36 学習の中で PC、タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。(中)
 NO.38 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。(小)
 NO.55 算数(数学)の授業の内容はよくわかりますか。(小)
 NO.56 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(中)

3 改善に向けて



【全国学力・学習状況調査の結果より確かな学力を育むための構造図：黒部市教育センター作成 2022】

今年度市内小・中学校に着任された 新規採用の先生方をご紹介します



「温和勤勉」

生地小学校 上田 愛里

養護教諭として働き始めてはやくも8か月が経ちました。「先生！」と呼んでくれるとても素直でかわいい子供たち、分からないことを丁寧に教えてくださったり、手助けしてくださったりする周りの先生方のおかげで、日々楽しく働くことができている。この環境にとっても感謝しています。子供一人一人と真正面から向き合い、支えとなるよう、また、子供たちの今と未来の健康を守り育ていけるよう、先輩方から学び、養護教諭の力量を向上させていきたいと思っています。

「子供たちのよい思い出の一つに」

中央小学校 山本 真綾

夢であった仕事に就き、毎日の子供たちとの関わりの中でたくさんの驚きや楽しさを感じることができて本当に幸せです。子供たちといると、忘れかけていた純粋な気持ちや小さな変化を喜ぶ気持ちを思い出すことができます。

これからも、担任をした子供たちが大人になったときに「あのとき楽しかったな」と思えるような学校生活を目指して子供たちと関わっていきたくと思っています。1番に、教師である自分自身が教員としての日々を楽しむことができるように取り組んでいきたいです。

「これからがスタート」

桜井小学校 深美 尚哉

教員には中学生のころからなりたいと考えていました。新規採用が決まりましたが、これがゴールだとは考えていません。これからどのような子供と出会うのか、自分がどのように影響を与えられるのか、考えるだけでわくわくします。

子供たちの「できた」「楽しい」を見た瞬間に、教師になってよかったなと思います。信頼関係を築き、そんな瞬間に多く立ち会えるように精進していきます。

「生徒とのよい関係をつくる」

清明中学校 板坂 友希

この半年間で、特に生徒とのよい関係づくりについて、深く考えさせられました。現在私が心掛けていることは、休み時間にできるだけ教室に行って、生徒と会話したり接する時間を増やしたりすること、生徒一人一人との適切な距離感や的確な助言を考えることです。

頭で分かっていることでも、自分の思っているようにいかないことが多くあるので、まず自らの心身の健康を大切にしながら生徒としっかり向き合っていきたいと考えています。

「試行錯誤の関係づくり」

清明中学校 高桑 智就

生徒は日々たくさんのごとの出会い、考えながら自らを高めていこうと学校生活を送っています。そんな生徒との関わりを通して、生徒の成長を感じることができる「教師」という仕事にやりがいを感じています。

しかし、生徒との良好な関係を築くためにどうしたらよいか悩む日が多く、生徒との関係づくりの難しさを感じています。生徒が自己実現する中で困難にぶつかり悩んだとき、温かい声かけをしたり、支援をしたりして、生徒に寄り添える教師になりたいと考えています。

「向き合うということ」

清明中学校 松本 仁千翔

4月から今日まで、たくさんの先生方からアドバイスをいただきながら、授業や生活指導に努めることができました。その中で、特に「環境整備」と「聴く」ということの大切さを学びました。教室が雑然としていけば、生徒たちの心も整わないこと、理科授業で予備実験や器具の点検をおろそかにしていれば、スムーズで安全な授業展開はできないことを実感しました。また、生徒の声を傾聴し、受容しなければ心を開いてはくれないことも分かりました。

今後も、生徒と真摯に向き合い、生徒とともに学び成長していく教師でありたいと思います。

「出逢いに感謝」

明峰中学校 金山 文香

愛がいちばん！明るく、人のために思いやりをもって行動しよう。』これは、私の担任する学級の目標の一部です。4月、皆で意見を出し合い、この目標に決め、生徒たちは相手の立場で物事を考え、温かい心を人に向けようと日々努力しています。そんな生徒たちと過ごせることに、喜びと誇りを感じています。

一日一日はあっという間に過ぎていきますが、愛にあふれる素敵な生徒たちとともに、一緒に過ごせる時間を大切に、私も成長していきたいと思っています。

「49歳にして」

明峰中学校 吉崎 治

私は日頃から、どんな仕事にも、その世界にしかない魅力があって、それにのめり込みたいと考えています。49歳にして4月から中学校教員という新しい仕事に就きました。この8か月間は不安がいつもつきまといました。しかし、不安以上に生徒一人一人が成長する姿にとても魅力を感じています。この生徒一人一人を見つめ育てる教員という仕事にますますのめり込んでいくのが楽しみでなりません。

原稿をお寄せいただきありがとうございました。子供たちと共に、全力で取り組んでおられる先生方の熱意が感じられました。先生方の成長を応援しています。



夏季研修会

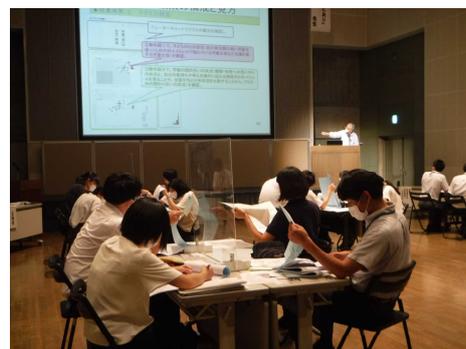
夏季休業に実施しました研修会及び各種研究委員会について紹介します。新型コロナウイルス感染症拡大防止として受付時に検温、消毒、マスク着用の確認、座席指定、換気の徹底、受講者の間隔を十分に空ける、受付の記入の際は、共用ペンを用いないなど対策を行いました。たくさんの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。



【i-check研修会】

○7月29日(金)〈対象：若手教員・希望教員 22名〉

本研修会では、「i-checkハンドブック」著者である山浦秀男先生より、i-check結果の読み取り方や学級経営への生かし方についての講演をしていただきました。次に、学校毎に1学期の結果について分析を行いました。講師の先生にも適宜話合いの中に入っていたいただき、アドバイスしていただくことで、今後の活用の仕方について見通しをもつことができました。



【生徒指導に関する講演会】

○8月2日(火) 魚津地区教育センター協業事業

〈対象：魚津管内希望教員127名うち市内教員46名〉

生徒指導コンサルタントの吉田先生から、全ての子供は基本的欲求(「仲間をつくりたい」「人に認めてもらいたい」「見捨てられたくない」「目立ちたい・注目されたい」)を満たそうとして行動を起こすこと、「自己肯定感等」が育っていると、「基本的欲求」が満たされて問題行動を起こしにくくなること)など、多くのことを教えていただきました。



【道徳教育に関する研修会】

○8月4日(木) 魚津地区教育センター協業事業

〈対象：魚津管内希望教員109名うち市内教員39名〉

東京学芸大学 特任教授 永田繁雄先生から、これからの道徳科の授業においては、子供の「主体性」を重視し、教師は「伴走者」に徹すること。教師が「教える」お膳立てから、子供の「追求する」仕掛けへと重心を変えていくこと。(「教」から「育」へ)問題意識を動かし、「納得解」を生み出すテーマ追求型授業を軸にすること、教師の柔軟かつ「多面的・多角的」な発想で「筋肉質」の授業をつくることなどを教えていただきました。



【外国語教育研修会】

○8月9日（火）相互参加型研修会

〈対象：魚津管内希望教員27名うち市内教員、JAT、JET22名〉

富山大学大学院教職実践開発研究科 教授 岡崎浩幸先生をお招き、「英語の好きな児童生徒の育成を目指して～小中連携の視点から～」という演題でワークショップ型の講演をしていただきました。小学校や中学校での指導内容や指導方法の違いを分かりやすく教えていただきました。また、小・中学校のスムーズな接続のための授業ポイントについてもワークショップ形式で教えていただき、改めて小中連携の必要性を感じとることができました。授業において十分に音声に慣れ親しませてから単語や文章を見せる重要性について話されました。



【特別支援教育研修会 兼 第2回特別支援教育コーディネーター研修会】

○8月18日（木）〈対象：特別支援教育コーディネーター、希望教員35名〉

富山大学教育学部 教授 和田充紀先生から、「特別支援教育で大切にしたい『授業づくり・学級集団づくり』」という演題で、ご講話をいただきました。

研修会后、参加者から「『誰にでもあったら便利という視点を大切に』ということが印象に残り、今後に生かしていきたい」、「子供たちが『授業に参加したい』と興味をもてるような導入を考えていきたい」、「目の前にいる子に適した手立ては何かということを考えることが大切であると改めて感じました」、「基本的な内容とはいえ、改めて日頃の自分の指導を振り返るよい機会となりました。特に、授業の導入で子供たちが参加できるか否かが決まることが分かりました」などの感想が寄せられました。



【黒部市令和のとやま型教育推進事業講演会】

○8月19日（金）〈対象：推進校教員、希望教員44名〉

南砺市教育委員会 教育長 松本謙一先生をお招きし、「『信頼』を基盤とした授業—主体的で対話的な学びを促すために—」という演題でご講話いただきました。

研修会后、参加者から「子供との信頼関係、思いやりのある学級をつくるためには、発言している子供がどんな気持ちで発言しているのか周りの子供たちが考えられることが大事だということを学びました」、「人と人との関わりを大切にしていくこと、相手の思いを受け止めてあげること等、学級経営の基本を学ばせていただきました」、「学び手である子供こそが主体となる授業をつくっていかなくてはならないと再認識しました」などの感想が寄せられました。



【学級経営に関する研修会】

○8月24日（水）魚津地区教育センター協業事業
〈対象：魚津管内希望教員95名うち市内教員27名〉

早稲田大学教職員大学院 教授 田中博之先生から、学級力は、自分たちの学級をよりよくするために発揮する子供たちの力であることを教えていただきました。教師は、学級をよりよくしたい子供たちの願いに寄り添い、子供の取組を支え励ましていくことが大切であると話されました。



中央研修の報告

教育相談基幹研修報告

「教育相談—学校における基盤的な機能—」

中央小学校 養護教諭 島 美枝

独立行政法人教職員支援機構主催の教育相談基幹研修を受講する機会をいただきました。
教育相談体制の今後の方向性について、気づきを得た点をご報告いたします。

文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（通知）」 平成29年2月3日
教育相談業務は、学校生活において児童生徒と接する教員にとっての不可欠な業務であり、学校における基盤的な機能である。
学校における教育相談は、決して特定の教員だけが抱えて行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもない。（中略）したがって、教育相談は、学校の教育活動全体を通じて、また全ての教員が様々な時と場所において、適切に行うことが必要である。

「教育相談体制の在り方」

立命館大学 野田 正人名誉教授

- ・指導や支援の在り方を教職員の価値観や信念から考えるのではなく、児童生徒理解（アセスメント）に基づいて考える。→やった感ではなく、成果と課題の確認と、指導支援の改善。
- ・チーム支援では、複眼的視点とアセスメントが不可欠。学校の教職員としてのSC・SSW。外部者からチームのメンバー、同僚、専門職へ。
- ・アセスメントによってプランニング（指導方法）も変わり、あらゆる場面に通用する指導や援助の方法は存在しないことを理解し、柔軟な働きかけを目指す。
→上手いかわからないのは、見立て違いか、方法選択の誤り。修正を。
- ・どの段階でどのような指導・支援が必要かという時間的視点をもつ。
→ことがおこる前の、リスク管理やスクリーニング。アセスメントに基づく、指導支援。

今後は、様々な困難を抱える児童生徒が孤立することがないように、関係職員と情報共有しながら連絡・調整を図り、予防的な手立てや問題解決に向けた適切な対応ができるよう努めていきたいと思えます。

人権教育推進研修報告

「あなたは大切である」

清明中学校 教諭 川口 将

3日間リモートで受講した人権教育推進研修では、人権教育を取り巻く国の動向や、ハンセン病への偏見・同和問題・LGBTsの理解等個別の人権課題について学ぶことができた。また、推進校での実践事例から学び、人権教育の在り方について深く考えるきっかけをいただいた。

今回の大きな学びは、「児童生徒の人権感覚を高める」ための環境づくりの重要性である。人権感覚とは「自分の大切さとともに他の人の大切さを感じ取る感覚」のことである。この感覚を高めるには、人権が守られていると感じられる環境が不可欠であるという。

初任者の頃を思い出すと、生徒指導で苦労することが多かった。当時の私は、生徒を呼び捨てにししたり、問題行動があれば大きな声で怒鳴ったりと、力任せな指導をしていた。生徒を大切に思うからこそその指導のつもりだったが、思いが伝わらず反発する生徒も多かった。私の指導は生徒にとって、「自分を大切にしてくれている」という感覚がもてない指導だったに違いない。生徒は、私の思いを大切にしたい・聞きたいと思えなかったのではなからうか。人権が守られていると感じられる環境を、つくり出せていなかったのだ。

本当に生徒を大切に思うのであれば、一人の人間として対等に生徒と関わるべきである。名前を呼び捨てにするのは、子供扱いしているということであり生徒に対して失礼である。問題行動があったとき、大きな声で怒鳴る指導は必要ない。落ち着いて生徒の話に耳を傾けてから、伝えるべきことを伝えるとよい。生徒が「自分は大切にされている」と感じる指導をしなくてはならない。それが生徒の人権を尊重するということであり、生徒自身が人権感覚を身に付けるための環境づくりの基礎になると考える。

「いじめ問題理解基幹研修」を受講して

宇奈月小学校 教諭 島瀬 容子

本研修を通して、「いじめ問題の現状と課題」、「法を踏まえた対応」、「学校内外の連携」、「未然防止に向けたマネジメント」等について理解を深めることができた。日頃の子供たちへの接し方、指導の在り方を振り返り、多くのことを考える機会となった。

特に、先生方と共有したいと思うことは、以下の事柄である。

◆「組織的対応」

- ・生徒指導主事が不在のときには誰に伝え、どのような経路で情報が共有されるのかを明確にしておく。(情報伝達のシステム化)
- ・緊急度と重要度によって四つの段階に分け、誰が対応するのかを決めておく。
①緊急かつ重要 ②緊急ではないが重要 ③緊急であるが重要でない ④緊急でも重要でもない
- ・生徒指導主事は、管理職へ「報・連・相シート」を基にした客観的な事実に基づく端的な説明を行う。その際、管理職が判断しやすいよう、対応策とそれに伴うリスクも提案する。
- ・指導・援助の目標設定をしっかりと行ってから、行動に移す。
- ・児童生徒から訴えがあった場合の具体的な対応の取り決めを行ってから、アンケートを実施する。

◆「いじめと認知」するかどうかの検討・判断

1回のみや一過性のことであっても、被害者の言動に要因があっても、いじめと認知される。たとえ、被害児童生徒が「大丈夫」と言ったとしても、いじめと認知すべき場合がある。

日々の学校生活において、いじめと認知される行為は実に多いといえる。大人の思い込みで子供の心情を勝手に理解してはいけないことがよく分かった。これまで自分は、子供の言葉にならない気持ちを知ろうとしていたか。おやっ、と思った出来事を軽視していなかったか。未然防止として、何ができていたか。本研修を通して自分自身を振り返り、考えたことを心に留めて、子供たちと関わっていこうと思う。そして、黒部市の目指す「いじめ見逃し 0」の実現に向けて、保護者や地域、関係機関等と連携し、学校全体で取り組んでいきたい。

「外国語教育指導者養成研修で学んだこと」

桜井小学校 教諭 舘野 遥香

今回、『小学校における外国語教育指導者養成研修』に参加させていただきました。この研修を受けて、意識が変わったことが2つあります。

1つ目は、授業中の子供たちの表情やつまずきに目を向けるようになったことです。指導方法である4つのPの中の“practice”では、チャンツやマジックワード等、楽しく新しい言葉に慣れ親しめるように設定していましたが、子供たちにも必要感をもって練習に臨ませることは大切なことだと知りました。ただ繰り返すよりも、「言えなかったから練習したい」「なんて言うんだっけ？」などという気持ちをもって練習する方が、覚えられますよね。そこで実際の授業では、練習の後に「心配なものはない？」と子供に聞き、子供自身に意識をもたせて練習できるように気を付けています。

2つ目は、単元を通してどのように言語活動を仕組むかを考えるようになったことです。本研修で、「言語活動には、設定する上で4つのポイントがあること」を教わりました。それは、①必然性(目的意識)②相手意識③本物④コミュニケーションをする楽しさです。ある授業で、好きな食べ物を伝える言語活動をしたときに、一人の子が選択肢の中に好きな食べ物がないと困っていた場面を思い出しました。その子にとって、「本物」ではなかったのだなと気付きました。そして、本当に好きな食べ物を答えていた子供はどれだけいたのだろうかと考えさせられました。子供たちが本当に言いたいことを話せるような言語活動を仕組み、準備していきたいと思いました。

子供たちが社会に出るころには、今まで以上に英語が必要となる場面が増えていくでしょう。だからこそ、形だけの知識ではなく、自分の思いや考えを伝えられるように育ててあげたいと思いました。

最後に、今回の研修の中には、Youtubeに挙げられている文部科学省の動画や、外国語に力を入れている学校の授業の実践から学ぶものもあり、刺激を受けました。身近に学べるものを上手く生かし、今後も自己研修に取り組んでいきたいと思いました。このような機会をくださったことに感謝しています。

第17回 黒部市小・中学校科学作品展 最優秀賞



今年度は、市内小中学校から優秀作品67点が集まり、その中から以下の8作品が最優秀賞に選ばれました。さらに厳選された4作品が県出品となり、第81回富山県科学展覧会で賞を受けました。

(◆は県での受賞名)

○だんご虫さんしんきろくをめざせ

桜井小2年 安田 耀

○び生物発電のけんきゅう

◆研究努力賞 石田小3年 城石 直和

○ろ過のパワー

石田小5年 飛弾 陽菜

○豆苗パート5 もっとのびる水を探せ!

◆研究努力賞 石田小5年 篠崎 葵

○モリアオガエルの観察パートV

～産卵と泳ぎ方～

◆研究努力賞 若栗小5年 中西 瑠煌斗

○錆研究 ～ステンレス編～

清明中1年 川端 鳳太

○汚れをよく落とす方法を調べてみた。

◆創意工夫賞 明峰中1年 城 希実

○ぶどう染めパート3

～染料と酸性・アルカリ性との関係について～
清明中2年 橋本 拓武



第17回 黒部市少年少女発明くふう展 県での受賞



今年度も多くの作品(小学校104作品、中学校14作品)が出品されました。その中から36作品が優秀賞となり、県発明とくふう展に出品されました。

第60回富山県発明とくふう展では以下の15作品が受賞しました。

(◆は県での受賞名)

○1円玉だけ急ブレーキ!?コイン自動選別機

◆富山県知事賞 荻生小6年 亀田 時煌

○ソックスエイド

◆黒部市長賞 中央小3年 島瀬 咲人

○スコップバケツ

◆優秀賞 村椿小1年 二法田 悠楓

○らくらくとり出せーる

◆優秀賞 たかせ小2年 中川 桃子

○夏でもかいてきリュッククッション

◆優秀賞 荻生小2年 佐渡 あずみ

○ぶかぶかうかぶ水ものさし

◆優秀賞 桜井小3年 鈴木 紗矢

○のむのおちゃん

◆奨励賞 桜井小2年 平田 璃咲

○なつのすずしいランドセル

◆奨励賞 宇奈月小2年 小柳 凜太郎

○だれでもかんたん!ズックあらい

◆奨励賞 石田小4年 高橋 絵瑞

○らいちょうに会おうちよ金箱

◆奨励賞 中央小4年 川口 康

○折ってすくう調味料ケース

◆奨励賞 石田小5年 中野 結

○どこにでもルーバー

◆奨励賞 たかせ小6年 谷嶋 康太

○絵画まもーる

◆奨励賞 明峰中3年 内呂 幸慈

○くつそろえ～る

◆奨励賞 明峰中1年 前本 有希奈

○譜めぐりカバー

◆奨励賞 明峰中2年 北條 珠季